

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 掛田 勝彦

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	掛田 勝彦	経理責任者	増田 誠宏
視 察 議 員	掛田 勝彦			
期 間	令和 6 年 7 月 2 日（火）～令和 6 年 7 月 2 日（火）			
視 察 先	広島県三次市十日市西 6 丁目 1 0 番 4 5 号 みよしまちづくりセンター			
視 察 用 務	議員の資質向上と議会運営の基本			
視察先対応者	自治体議会研究所 代表 高沖 秀宜			
概要及び所見	講師 自治体議会研究所 代表 高沖 秀宜 氏 研修会は、新人議員向けの基本となる内容であったが、改めて現在の議会の役割を認識できる内容であった。 ① 議会の役割・機能 ② 議会運営の基本・通年制議会 ③ 政策提案の原点 ④ 議員力・議会力の強化 ⑤ 政務活動費の活用 ⑥ ポストコロナ時代の議会運営 今年度、議会活性化等検討特別委員会の委員長を務めており改めて基礎研修を受講した。この委員会の設置の目的が待遇面も含めた環境整備など、議会活性化に向けた具体を調査・研究するというものであり議長から調査研究項目をいただいている。その内容な下記のとおりである。			

- ①議会における人材育成について
- ②議会への多様な人材の参画について
- ③その他議会活性化に関すること

これらの内容に関係する研修になると思い理解しようとした。また、最新の動向をキャッチできればと考えた。最初にポストコロナ時代の自治体の議会改革についての言及があった。コロナ感染症の猛威が終わり、ポストコロナ時代は今までの議員のあり方、議会改革を一段とレベルアップして欲しいと言われた。『改革の底辺から底辺の改革へ』全国の自治体議会では議会改革が進んでいないところが多い中で、議会とはどうあるべきかを常に考えてやって欲しいとの話であった。その根拠として日本経済新聞の日曜版の1面トップに『地方議会止まらぬ空洞化』『空洞化していませんか。』という投げかけがあった。議会は存在し、議員も存在しているが機能を発揮していないため空洞化しているということだった。顕著になっていることで首長の専決が10年前の水準と比較して専決が増えていることや、担い手不足についてであった。これらは地方に行けば行くほどより深刻である。これについては様々な見解があると思うが、議会が機能していないために魅力を市民に伝えられていない点があるのではないだろうかと話が及んだ。

前述した首長の専決処分についてであるが、専決の内容にもよるが首長の専決処分を防ぐためにも通年制議会に向けての取り組みを提案された。先進議会では通年制議会を導入しているところが多いと率直に感じた。近い将来、通年制議会の検討も視野に入れて議論することもあると思った。

議会の存在意義を考えて欲しいと言われたが、議会が議決機関になってしまっているところが残念な点であるということだった。憲法で地方公共団体に議事機関として議会を設置すると言われている。議事機関は当然議決機関としての一面もあるが、要は議事機関として審議や熟慮を合わせ持つところを認識して欲しいと言われた。その点については肝に銘じなくてはならないと思った。議会の議員は住民の負託を受けて誠実に、その職務を行わなければならないと地方自治法に明記されている。住民の負託を受けているからこそ、住民に何かを返していかないといけないと思う。ここを考えるのも議員の役目であるとの話だった。

最後に一般質問については次のような話になった。行政に対して監視機能と政策提言を発揮しなくてはならないはずの一般質問が、個々の一般質問で終わってしまい議会の多数の意志を示す政策提言につな

	がっていないことの課題を指摘された。住民の中には成果主義を求める声もあり、議会の意志としての政策提言にするためには議員の意識の共有がまずは必要だと思った。このような内容も反復が重要だと改めて感じる内容だった。
--	---

